

# 令和6年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価（評価議員コメント記載 及び まとめ）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和6年)	結果の考察・分析及び改善策
1. 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「分かる授業」の実践。</li> <li>シラバスを見直し再構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えたか。</li> <li>担当科目のシラバスの作成・見直しを年度末又は年度当初に行ったか。</li> </ul>	B (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスおよび授業計画は、外部発信としてホームページに掲載するとともに、教科担当者から学生へ授業開始前に説明を実施している。</li> <li>「分かる授業」については、授業評価にて理解度の確認を行い、授業担当者へ情報としてフィードバックできた。また、学生の理解度に合わせ授業を進めることで、さらに理解度向上を図っている。</li> <li>昨年度と比較し0.3ポイントの自己評価が向上しており、例年の値まで回復した。先生方が担当する授業の改善が数値として表れたと思う。</li> <li>新課程における授業で学生に戸惑いが出ないように、旧課程の授業内容を基本として編成した。学生に分かりやすい授業を行うためにシラバスなどを教科担当者にて再編成し、より良い授業へ改善していく必要がある。</li> <li>● 自己評価の推移 ・R5：B(2.7) ・R4：B(3.2) ・R3：B(3.3) ・R2：B(3.1)</li> <li>・ 学生へ授業計画を配布し、全体の流れや学習目標・目的を明確に説明できた。</li> <li>・ 学生の理解度及び授業の進捗状況に合わせ、改善し取り組む事が出来た。</li> <li>・ 年間授業時間数ギリギリではあるが、1年次に学習する内容を年度内で終了するよう努力している。</li> <li>・ 年毎に学生の状況が変化しているが、それに対応した計画を考えて実施している。</li> <li>・ 昔からの基準ではなく、現在の学生の状況に応じた授業及び評価方法(評価基準)に変えていく必要がある。</li> <li>・ 毎年度の学生に併せた授業進行を行えるよう心掛け、授業ベースの変更や単元に使用する時間の見直しを常に行っている。</li> <li>・ 各科目における授業内容の見直し・精査を行い、バランスの取れた授業内容および理解度向上のための時間確保を行う。</li> <li>・ 教科担当として、毎時の目的・目標をしっかりと伝えるよう努めている。</li> <li>・ 年度当初に作成したシラバスに基づいた授業展開を心掛けているが、学生の理解度把握が異なるため、毎授業ごとの確認を行うよう取り組んでいる。</li> <li>・ 当初シラバスで計画した進捗状況より若干の遅れの誤差がある。</li> <li>・ 次年度はできる限りシラバス通りに授業を進められるように計画をする。</li> <li>・ 登録試験の内容をベースに、ポイントをまとめて授業資料を作成し、シラバスを基に授業を展開した。</li> <li>・ 全体的に昨年より理解度の低下があるため、作動教材や動画を使用して構造や作動を理解出来るように意識した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の視点に立った教育方法の工夫をしているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「建学の精神」の具現化に徹する。</li> <li>『建学の精神』～道義に徹し～ ～実利を図り～ ～勤労を愛す～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業においてキャリア教育に関する指導を行っているか。またその指導の定着を図っているか。</li> <li>進路や将来についての学生指導・アドバイスをを行っているか。また心がけているか。</li> </ul>	B (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任を中心に、全教職員にてキャリア教育指導を実施しているが、遅刻や欠席が増加している。キャリア形成・学び直し支援センターなどのセミナーを実施し取り組んでいる。</li> <li>社会人としての自覚を早期に持たせ、キャリア教育を実施していく事が重要である。</li> <li>令和5年度卒業生において10%以上が1年未満で退職している現状がある。就職活動における学生と企業とのマッチングも大切であるが、現在の学生の考え方や個人状況などを企業へ伝え、協力を得ながら離職防止を図る必要がある。</li> <li>自動車業界で活躍している卒業生を招いて、講話を実施した。企業が求める人材や就職するにあたり大切なことなどをアドバイスして頂くことができた。</li> <li>昨年度より0.4ポイントの増加が見られた。教員が学生に対し進路指導や学習アドバイスなどを多く実施していることの影響だろうか。</li> <li>● 自己評価の推移 ・R5：B(2.8) ・R4：B(3.2) ・R3：B(3.0) ・R2：B(3.1)</li> <li>・ 法令改正などで変更された自動車業界情報を学生へ展開することができた。</li> <li>・ 企業を訪問し、感じたことや企業が学生へ求めている事などを伝え、日頃の重要性を教えると共に学生指導を行った。</li> <li>・ 先ずは自動車に興味を持たせることに注力し、今の学習が今後のキャリアに必要なことだと理解させるよう努めている。</li> <li>・ 学生という立場の間は理解しづらい内容だが、個々の目線に合わせた声かけを行っている。</li> <li>・ 現在の学生の状況を把握し、進路選択の幅を広げる必要がある。</li> <li>・ 自動車整備士としての社会観や人間形成に繋がる内容を授業内に確保している。</li> <li>・ 実際の現場作業や接客応対を意識した理解度を目標に授業を展開している。</li> <li>・ 各授業の進捗状況等を踏まえ、さまざまな行事の実施時期・内容等の精査を行い、学生が目標達成に向けた取り組みを行いやすい環境の再構築を行う。</li> <li>・ 建学の精神に基づき、日章学園及び本校の目指す学生像となるよう、日々指導を行っている。</li> <li>・ 社会人としての考え・マナーなども含め、自分自身の将来像をしっかりと捉えることができるよう指導を行っている。</li> <li>・ 進路や将来について指導しているつもりだが、まだまだ伝わっていない部分が多い気がします。</li> <li>・ 次年度は指導する自分自身がしっかり芯を持ち、学生指導に全力を注ぎたいと考えております。</li> <li>・ 内定者であることを意識させ、学習やプライベートでの過ごし方について指導を行った。</li> </ul>
	評価委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年未満の退職者が10%であることについて、全国平均値との比較を記載してみてもどうか。多いのであれば改善が急務であると思う。</li> <li>・ 前年度より全体的に改善されていると思う。</li> <li>・ 遅刻欠席などは、社会では通用しないことを教える。</li> </ul>			

評価： A(4.0～3.5):期待以上、 B(3.4～2.5):ほぼ期待通り、 C(2.4～1.5):やや期待を下回る、 D(1.4～0):改善を要する

# 令和6年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価（評価議員コメント記載 及び まとめ）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和6年)	結果の考察・分析及び改善策
	・ 資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか又貢献しているか	・ 過去問題の分析や予想を怠らない。	・ 2年生の二級模試(12月期)において、担当した科目(1年・2年次に担当していた、又は担当している)のセクション平均点は6割を超えているか。	B (3.0)	○ 二級ガソリンと二級ジーゼル2科目の12月期における模擬試験の平均正答率は下記の通り。( )は昨年度【ガソリン】17.3% (67.3%)、7.3% (57.8%)、工学：60.7% (73.3%)、法令：70.7% (90.0%) ⇒7.3%のみ判定基準の6割に達してはいない。昨年度との比較で全体の落ち込みが見られる。【ジーゼル】17.3% (48.9%) (50.0%)、7.3% (40.9%) (44.9%)、工学：40.0% (54.0%)、法令：70.0% (74.7%) ⇒判断基準の6割を超えているものは法令のみで、その他のセクションで低下が著しく見られる。 分かりやすい授業を実践しているが、理解するまでに時間が掛かったりと理解度の向上を図るために、車の仕組みに興味を持たせるような授業のカリキュラムなどを検討する必要がある。また、計算問題を苦手としている学生も多くい状況であるため、理解できるレベルの授業を実施するなど改善に向けて組織で対応する必要がある。  ● 自己評価の推移 ・R5：B(2.5) ・R4：B(2.8) ・R3：B(3.0) ・R2：C(2.3)  ・ 計算問題が苦手な学生が多く、工学セクションの点数においては、平均を割っている状況である。 ・ 学生が苦手な問題については、個別学習を行い理解度向上を図る。 ・ 2年生の模試結果を確認し、担当科目であるマシンについて必要に応じて説明・解説を行っている。 ・ 現在の学生の状況に応じた国家試験に向けての学習方法に変える必要がある。 ・ 担当した科目において、理解度の低い学生への個別指導に取り組んでいる。 ・ 時間の経過とともに忘れてしまう部分へのフォローに力を入れていきたい。 ・ 過去問題を分析し、国家試験に向けた取り組みを行っている。また、個々の理解度向上に繋げるため、少人数制クラス分けを実施しそれぞれの理解度把握に努めながら各個人にあった課題や勉強方法を実施できるよう指導している。 ・ 2級取得に意識をし、授業できている。 ・ 次年度からはもっと早めの行動を心がけます。 ・ 2級ガソリンについては7割程度合格点を取れるようになっているが、二種目両方と考えると6割未満となっているため、引き続き個々に合わせた方法を見つけ、点数向上に努める。
	2. 学習成果	・ 就職内定率向上を常に考え企業との円滑な関係構築に取り組んでいるか	・ 学校行事と連携した企業との密接な関係構築に努める。		・ 各業務の企業窓口担当者は、積極的に行動・提案して、円滑・綿密な企業対応に心がけ学生・学校の評価向上に務めたか。 ・ 各業務の企業窓口担当者以外は、担当者のサポートとして、事前準備等に積極的に取組み、学生・学校の評価向上に務めたか。
	評価委員コメント	・ 学習成果においては、評価は高く良いと思う。個別学習など今後も必要に応じて対応してほしい。 ・ 計算問題などは、方程式を覚えるよう努める。 ・ 前年度の維持、向上を前向きに進める。			

評価：A(4.0～3.5):期待以上、B(3.4～2.5):ほぼ期待通り、C(2.4～1.5):やや期待を下回る、D(1.4～0):改善を要する

# 令和6年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価（評価議員コメント記載 及び まとめ）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和6年)	結果の考察・分析及び改善策
3. 学生支援	・ 学生と常日頃から良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行っているか	・ より良い学校生活が送れるように学生との会話に心がけ情報収集に尽力する。	・ 学科会、学年会、推薦委員会等の開催や開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導等に対して積極的に問題提起・発言・発案を行ったか。	B (3.3)	○ 学生状況について、担任からの情報を共有して、全教職員へ発信する時間を作っている。さらに、学級日誌などを活用すると共に、教職員一人ひとりが情報発信し、学生状況を把握しやすい環境にして行く必要がある。  ○ 学生主役を前提として、2年間で教育機関として、学生の社会人への準備期間と捉え、父母等や学生が学校に求めていることを再認識し、学生や父母等が満足できる体制の構築をさらに図っていく必要がある。  ● 自己評価の推移   ・R5：B(3.0)   ・R4：B(3.2)   ・R3：B(2.8)   ・R2：B(2.5)  ・ 容儀容姿などが気になる学生へ声かけを行った。 ・ 学生状況を職朝などで共有し、把握することが出来た。全体への状況報告件数を増やし、情報量を多くする必要がある。 ・ 学生会行事や活動をとして今の世代の学生が何を考え、何を基準に過ごしているかを把握し、個々への対応をしている。 ・ 現在の多様性を持つ学生が何を思い、どのような行動をするか等、個性に応じた声かけ、指導方法を実践していく必要がある ・ 学生と向き合う教職員の意識改革を行うべきである。 ・ 学生への個別指導やアドバイスをを行うとともに、情報提供および指導協力、問題提起を常に心がけている。 ・ 情報共有だけに留まらず、全教職員が同レベルで学生と向きあうための協議を行い、サポートが必要な学生への支援を行う。 ・ 学生とは積極的に会話し、情報収集を行っている。 ・ 副担任として、担任の先生へのサポートにも不安を感じる部分があるため、広い視野を持ち業務をサポートできるよう取り組む。 ・ 学生に変化があった場合は副担任と協力し、指導できている。 ・ 次年度からは自分自身でも対応できるようにしたい。 ・ 学級担任として特に意識して、毎日1回はコミュニケーションを取るようした。 ・ 問題がある学生については、副担任と連携してコミュニケーションを取るようした。
	・ 学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか	・ 退学者を出さない目標を掲げ取り組む。  ・ 些細なことにも「気づこうとする」意識を養う。	・ やむを得ないとの判断(管理職判断)以外の退学者の発生は出ていないか。又、可能性がある学生を適切に指導できているか。  ・ 科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。		A (3.5)
	評価委員コメント	・ 学生の変化に気を配り、退学防止に努めていただいて感謝している。コミュニケーションを大切にし、この状態を継続して頂きたい。 ・ 家庭環境に目を配る。 ・ 前年度の維持、向上に努める。			

評価： A(4.0～3.5):期待以上、 B(3.4～2.5):ほぼ期待通り、 C(2.4～1.5):やや期待を下回る、 D(1.4～0):改善を要する

# 令和6年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価（評価議員コメント記載 及び まとめ）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和6年)	結果の考察・分析及び改善策
4. 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室・実習場の整理整頓に心掛けているか、また、補修が必要な設備を放置せず報告したか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びの場」の環境保全を教職員・学生と連携して取り組む。</li> <li>施設保全＝学生満足度と考えて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材・機器備品の使用は学科教職員も把握しているか、使用後の片付けや清掃は即対応しているか。</li> </ul>	B (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材などを整理整頓し、一部で学習環境を整えた。しかし、古い教材や使用していない教材が多いため、定員数に応じた管理や時代に応じた新たな教材を管理する必要がある。</li> <li>○ 使用後の教材や備品の散乱が時々見られる。整頓整頓の意識向上を図りながら、学科全体として改善が必要である。また、教職員全体が修繕出来るような体制を作る必要がある。</li> </ul> <p>● 自己評価の推移    ・R5：B(2.8)    ・R4：B(2.8)    ・R3：B(3.0)    ・R2：B(2.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に学生の机や工具類の整理整頓を行う事を実行した。</li> <li>・一人一人が整理整頓を意識し、引き続き全体で取り組む必要がある。</li> <li>・今年度も施設保全や今後必要である設備を報告しているが、補修にも限度があり、提案が前へ進まない現状がある。</li> <li>・毎年要望をしているが、不必要・不使用なものが多すぎるので現状を精査していただきたいと思う。</li> <li>・校内美化に取り組むことで、学生の登校前の環境作りや施設保全および過ごしやすい環境作り、改善策を提案している。</li> <li>・時代に合わせた環境整備への提案を行う。</li> <li>・共有機器、備品、工具は毎回片付けよう心掛けている。しかし、整理整頓が教員メインとなっているため、今後は学生を巻き込みながら実施出来るよう取り組んでいく。</li> <li>・整備に使用する機器や教材などに老朽化が見受けられるため、しっかりとした保守管理、整備を行い、学生満足度向上を目指し取り組む。</li> <li>・授業の組み立て不足により、時々授業時間ギリギリで終了することがあった。そのため、放課後に片付けをすることがあった。</li> <li>・次年度からは『片付け』までを授業時間に入れた計画をする。</li> <li>・日頃から準備と片付けを意識させ、班ごとに整理整頓を意識させた。</li> <li>・使えない教材を区別するよう意識したが、全てに手を加えることができなかった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器・備品の適切な取り扱いに心掛けたか又積極的に必要な機器・設備の要望を行ったか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コスト意識をしっかりと持った業務を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科の予算要求に対して「わかる授業」のための教材の見直しを図り、必要と思われる機器購入等の要望を行ったか。</li> </ul>	B (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学科として時代に沿った教育が出来るように、カリキュラム内で使用する機器や教材を明確にし、計画が必要。</li> <li>○ デジタルツールを使用した授業を全教員が実施している。理解度向上に必要なツールや環境をさらに整える積極的な動きが必要である。</li> <li>○ スキャンツールでのOBD検査に対応できるように、予算要求を実施した。今後は、教職員への講習会を実施し、全員が授業できるような体制を整えていく必要がある。</li> </ul> <p>● 自己評価の推移    ・R5：B(2.8)    ・R4：B(2.7)    ・R3：B(3.0)    ・R2：B(2.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・故障した機器などは出来るだけ修理し、使用出来るようにした。</li> <li>・修理不能や老朽化している機器について、予算要求を行った。</li> <li>・新課程に必要な機器類の要求を実施した。</li> <li>・年数が経ちすぎている備品が多く、取り扱いに注意をしているが限界なものが多い現状である。</li> <li>・今年度も設備と同じく、新規要望はあげているが、現状維持が続いているので「わかる授業」の実践のためにも、現場の把握を希望している。後々に伸ばしていくと一気にコストがかかる危険性がある。</li> <li>・予算・コストに関して、関係部署間の意思疎通を円滑にする必要がある。</li> <li>・担当科目に使用する機器等の修理や交換を提案するとともに、時代に合わせた教材や機器の整備の提案を行っている。</li> <li>・購入機器の必要性や費用対効果の確認などに注意を払い、継続的に提案を行う。</li> <li>・新たに購入する機器備品については、しっかりと計画を立てた後、要求をするように心掛けている。</li> <li>・教材についても破損等が見受けられるものを精査し、入れ替えを検討していく。</li> <li>・今年度は、昨年度よりも前準備の時間を設け、授業に取り組んでいたが、故障している機器等の把握が出来ていなかった。</li> <li>・次年度からは、故障機器を見つけたら速やかに報告するよう心掛ける。</li> <li>・班編制を4班から6班へ変更。実習車を4台から6台と増やし、少人数で全員が同じ教材を使って少しでも多く整備を行えるようにし、理解度向上を図った。</li> </ul>
	評価委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OBD検査に対応出来るようにとあるが、実際の実務に携わるまでには数年を要すると思うので、検査前にどの様な業務（書類・対象）を理解して欲しい。</li> <li>・なぜ整理整頓が必要なのかを理解させる。</li> <li>・前年度の維持、向上に努める。</li> </ul>			

評価： A(4.0～3.9):期待以上、 B(3.4～2.9):ほぼ期待通り、 C(2.4～1.9):やや期待を下回る、 D(1.4～0):改善を要する

# 令和6年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価（評価議員コメント記載 及び まとめ）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和6年)	結果の考察・分析及び改善策
5. 学生募集	・ 学生募集活動を積極的に行っているか	・ 募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。	・ 担当地区の募集目標を達成できたか。  ・ 担当校に特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。	B (2.8)	<p>○ 第3回入学試験（12月期）終了時点で定員目標に対する充足率が82%（定員50名に対し、41名の入学手続き）の状況となっている。併設校自動車科の生徒数が減少している状況の中、併設校のご協力の下、自動車科からの受験者と併せ、その他の学科からも受験者を輩出いただけた。企画広報部にて、毎月の学年会への参加や複数学科生徒への説明の機会をいただけた事などが成果として表れた。</p> <p>○ オープンキャンパスに参加者して頂くことで、学校や自動車整備士の魅力を伝えている。今後は、さらに参加者数を増加させる取り組みや満足度向上を狙い、入学者の増加を図る取り組みを全職員で実施したい。</p> <p>● 自己評価の推移    ・R5：B(2.8)    ・R4：B(2.8)    ・R3：B(2.7)    ・R2：B(2.6)</p> <p>・ 入学者の目標人員は未達成となった。 ・ 自動車整備士不足などを伝えるため、国土交通省の資料などを持参し自動車業界の状況などの説明を行った。 ・ 今年度は少ない担当校の割り振りであったが、実績の無い高校にて厳しい現状にあった。 ・ 各高校の現状や情報を整理した上での訪問を行い、必要な資料(写真)などを準備して活動を行った。 ・ 自身の担当校を増加し、募集活動の強化および管理を徹底して行った。 ・ 可能な限りの説明会等への参加を行い、自動車整備士への興味、理解の向上と学校PRを行った。 ・ 訪問する学校および生徒にあった資料や情報を準備すると共に、訪問時期に合わせた説明を行った。 ・ 募集活動範囲の拡大、充実を図るために全教職員で取り組める計画を行う。 ・ 現時点で担当した高校から受験者が出ていない状況である。残りの期間少しでも多くの出願者を出せるよう、最後まで取り組む。 ・ 企画広報部のチラシに頼っている状況のため、自分なりの学校の魅力が発信できる資料を作成する。 ・ 今年度から、各担当校に訪問させていただくようになったが、伝達内容をしっかり把握出来ていなかった。 ・ 訪問資料の内容をしっかりと理解し、訪問する。 ・ 高校訪問やガイダンスの訪問を行い、本校のアピールを行った。 ・ 企業協力型のオープンキャンパスをアピールし、呼び込みを行った。</p>
	・ 学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えているか	・ 高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。	・ 担当の高等学校には、毎回面談頂ける先生がいるか。  ・ 決められた情報提供に終わらず、高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行った。	B (3.0)	<p>○ 教職員全員が担当高校を訪問し、学校行事や学生の活動状況など伝え学生募集を行うことが出来た。</p> <p>○ 学生募集に関して、SNSなど利用したPR活動の活性化が出来ていない。業務として全教員にて実施できるような環境を整え、実績に繋げていきたい。</p> <p>● 自己評価の推移    ・R5：B(3.0)    ・R4：B(3.2)    ・R3：B(3.0)    ・R2：B(2.8)</p> <p>・ 同じ高校を訪問することで、担当者の顔として認知して頂いている高校が多かった。 ・ 特定の先生との面談が増え、自動車業界や学校の話も深く伝える事が出来た。 ・ 進路指導責任者を中心に進路指導部全体への印象強化を図った。 ・ 各校の特色のある取り組みや、文化部・体育部の状況を調べ、本校での学校行事などに関連性のある話題を含めた情報を提供しよう心掛けた。 ・ 担当校および担当校以外でも直接ご連絡のできる先生が多く、担当校以外からの直接的な相談等をいただける状況と併せ、本校を知っていただく意味で、別の進路の先生や3学年担任に直接お会いするよう取り組んでいる。 ・ 本校の特色への理解度を深めていただける伝達を行い、講義などのより高校との密接した関係構築を強化する。 ・ 今年度担当した高校に関しては、関係性をしっかりと築くことができた ・ 事前調査が足りておらず、各高校へのプラスαの情報提供が行えていない。 ・ 各校で色々なお話を聞くことが出来たが、今年度は担当校からの入学者が出なかった。 ・ 次年度からは、担当校からの入学者を出したい。 ・ 面談出来る日を確認し、対面での挨拶を意識した。</p>
	評価委員コメント	<p>・ 41名の入学者の確保が出来た事は、もう少し高く評価しても良いと思う。40名以上の入学者を維持できるよう、今後もよろしくお願いしたい。</p> <p>・ 学生数減少に伴い、生徒数が少ないのは仕方ない。やりがいのある仕事であることもアピール。</p> <p>・ 無理のない程度に。</p>			
総合評価				B (3.1)	<p>● 総合評価の推移    ・R5:B(2.9)    ・R4:B(3.1)    ・R3:B(3.0)    ・R2:B(2.8)</p>

評価： A(4.0～3.5):期待以上、 B(3.4～2.5):ほぼ期待通り、 C(2.4～1.5):やや期待を下回る、 D(1.4～0):改善を要する